

第五次須坂市総合計画 基本構想 将来像案

案1

将来像：『 活力、文化、誇りがみなぎる田園環境都市 須坂 』
とします。

私たちは、自然と共生する快適環境、文化に恵まれた須坂に根ざし、福祉や環境、教育、産業の課題に取り組む、みんなが「須坂に住んでよかった」と誇りにもてるまちを「共創」により実現していきます。

この将来像を実現させるため、基本構想では、須坂市のこれまでの経過や現状、課題を踏まえ、須坂市のまちづくりに対する基礎となる考えと目標を示し、市民のみなさんとの共創による将来像の実現を果たす共通の約束として位置づけます。

案2

将来像：『躍動し続けるまち みんなが愛する健康都市』

須坂市のまちづくりについて、市民のみなさんと行政が同じ立場で活発に意見を出し合い、協働で実施していきます。実施するまちづくりについて評価をし、話し合いによりその取組みを改善していきます。このサイクルがまちを動かす躍動へと変わっていき、活気あふれるまちを表します。

また、須坂市は保健補導員発祥の地であり、市民のみなさんが自らの健康を守っています。この保健補導員活動をはじめ市民のみなさん自らが誇りを持ち、活発に取り組むことで、お互いに助け合い健康で暮らせる須坂市をみんなが愛しています。

理由：

意識調査で今後の須坂市に「活気」を望む声が多かったので、活気を集積させて「躍動」していくことをめざしている。

須坂市の独自性を考えると、須坂市は保健補導員発祥の地であり、保健補導員の活動により、須坂市民は地域で支える「健康」に対する住民意識が非常に高い。

地域医療や身近な健康に重点を置くことで、須坂市に住んでみたいという人も増えるのではないか。

案3

将来像：『 やさしさと活力あふれる美しい共生(共創)・文化のまち 』
第四次総合計画の将来像を受け継ぎ、第五次総合計画も継続して将来像として掲げる。

案4

将来像：『 みんなで一緒に暮らし続けたいまち すざか 』

わたしたちがめざす須坂市の未来の姿は、

- ・ 市民のみなさんがこれまで「住んでよかった」と感じ、今後も「住み続けたい」と思えるまち
- ・ 須坂市で生活する人、働く人、学ぶ人などすべての人が安心していただけるまち
- ・ お互い助け合い、支え合いながら暮らし続けられるまち
- ・ ひとりではなく、家族や職場、学校、地域などのみんなが同じ想いでいただけるまち
- ・ 効率の良い機能的に優れた居住空間と、緑や水、きれいな空気など豊かな自然に囲まれた環境の調和がとれたまち
- ・ きれいな自然景観や町並みを次の世代に引き継ぐことができるまち

が、未来の須坂市の姿です。

みんながめざす須坂市の未来の姿として、須坂市で生活するみなさんの視点で、市民のみなさんや企業、各種団体、行政が一体となって考え方を共有し、実現を目指すものとして将来像を位置付けます。

案5

将来像：『 クリーンなまち 須坂 』

『 クリーンなまちづくり 』

『 きれいな自然、きれいな都市をいつまでも 』

『 きれいな街を次世代へ 』

キーワード 「きれい」 = 「クリーン」

きれいを連想する回答がアンケートで多かったので使用

案6

将来像：『 スマートなまち 須坂 』

『 住んでよかったスマートなまち 須坂 』

『 スマートに暮らしつづけるまち 須坂 』

キーワード 「きれい」 ⇔ 「スマート」

きれいを連想する回答がアンケートで多かったので使用

案7

将来像：『 人とまちが躍動するまち 須坂 』

『 躍動し続けるまち 須坂 』

キーワード 「活気」が集積されて「躍動」に変わる

住む人が活気づき、それに伴い街も躍動する

案8

将来像：『 みんなが笑顔、元気印のまち、スザカ 』

意味：少子高齢化を考え、“健康、福祉”に力を入れるまちづくりが必要かと思いました。
「子どもから、おじいちゃんおばあちゃんも笑顔」というイメージです。

案 9

将来像：『みんなが愛するまち 須坂 ・ みんなが愛する健康都市 須坂』

キーワード 「愛」

案 10

将来像：『元気なまち 須坂』

キーワード 「元気」

案 11

将来像：『いきいき健康都市 すざか』

キーワード 「健康」

採用理由 保健補導員発祥地だから

案 12

将来像：『進化を続けるまち 須坂』

『進化を止めないまち須坂』

キーワード 「進化」

案 13

将来像：『幸せを実感できるまち須坂』

キーワード 「幸福」「幸せ」

案 14

将来像：『賑わいのあるまち 須坂』

キーワード 「賑わい」

案 15

将来像：『今日も明日も生きるまち 須坂』

案 16

将来像：『笑顔で過ごせる須坂市』

案 17

将来像：『自然、文化、伝統、賑わい』

意図：いつまでも残したいもの

案 18

将来像：『みんなが笑顔の暮らしを支え、環境と未来をひらく すざか』

案 19

将来像：『自然と環境と景観がきれいなまちすぎか』

案 20

将来像：『人と自然が未来をひらく いきいきすぎか』

案 21

将来像：『みんなでつくるみらいの笑顔 いきいきすぎか』

案 22

将来像：『人と自然が響きあう いきいきすぎか』

案 23

将来像：『"Make the style WELCOME to suzaka"』

案 24

将来像：『あなたとともに いきいきすぎか』

案 25

将来像：『人と自然がきれいなまち みらいを共に創り、心に響くいきいきすぎか』

【参考】

第一次須坂市総合計画

期間 昭和 48～55 年度

基本理念

第 1 節 自然保護と住みよい環境づくり

先人により守り育てられてきた自然は、人間を含めたすべての生物の基盤であり、大きな財産である。時代に生きるものの務めとして、この自然を保全し将来へ向かって伝承されるべきものである。しかしながら、自然は開発という名によって破壊されつつある。

保全を前提とした自然の利用を基調として、自然との調和を図る。自然に恵まれた本市は、自然を慈しみ育て清爽な環境づくりに努める。

第 2 節 豊かな人間性とコミュニティをかん養する教育の推進

経済発展と都市化は、生活態様の変化と人間性のそう矢をまねきつつある。恵まれた自然にはぐくまれ、自然を愛し、隣人と親しみ、豊かな人間性の形成を目標に教育の推進に努める。

第 3 節 公害のない産業の発展

住宅都市的性格を含んだ工業都市への発展の傾向にある本市にあつて、生活環境の向上と工業の発展とは切りはなして考えることができない。したがって、工業の進出にあつては、公害防止と工場適地への誘導との調整を図り、企業、市民ともに生産性の向上と住みよい都市づくりに努める。

第 4 節 広域的総合観光開発

未開発観光地を数多く有する本市は、それぞれの地の特色を最大限に表現し、観光価値の高揚と観光客の招致に努めるものとするが、保護ある開発を前提とする。

都市人口の増加と交通通信の発展は、観光への欲求を増大し、その範囲・観光規模ともに拡大されるものと推測される。地理的に分散している観光地を有機的に結合せしめ、広域的総合観光立地体制の確立を図る。

将来像 『住むなら須坂 住み良い須坂の建設を』

意味

社会的経済的変動を的確に把握し、市民の生活水準の向上、人間優先をなによりも重視し、健康で豊かな住みよい都市づくり「住むなら須坂 住み良い須坂の建設」を目標に、産業経済、教育文化、社会福祉等の向上発展を期して総合的な計画をすすめてまいります。

第二次須坂市総合計画

期間 昭和56～平成2年度

将来像 『健康であたたかい心のかよう福祉都市、創造性に富み人間性豊かな教育文化都市、調和のとれた活力あふれる産業都市、明るく住みよい生活環境都市』

意味

1. 健康であたたかい心のかよう福祉都市

自然に恵まれた清らかな水と光と美しい緑に包まれたなかで、市民の健康管理と医療体制の充実が進められ、社会的に恵まれない人々の福祉の増進が図られ、基本的人権が守られるなかで、市民の連帯と生きがいを感じることでできる豊かな生活が営める福祉都市をめざす。

2. 創造性に富み人間性豊かな教育文化都市

学校、社会教育、スポーツ及び文化の諸施設が整備され、恵まれた自然環境のなかで豊かな情操と人間性を培い、可能性を活かした能力開発と人間育態の教育が行われ、市民スポーツの振興により健康と体力の増進が図られ、祖先から伝承され市民のくらしのなかに生きる文化を育て、未来を担う人づくりと生涯教育を進め、創造性と人間性豊かな教育文化都市をめざす。

3. 調和のとれた活力あふれる産業都市

自然と調和した秩序ある生活、産業基盤の整備によって、都市機能の集積を高め、地方中核市との有機的な連携を図り、適正な産業を誘導して工業構成と調和した産業構造を促進して、若年層の定着と、地域住民所得の増大等住民の生活向上に寄与する個性と調和のとれた活力あふれる産業都市をめざす。

4. 明るく住みよい生活環境都市

河東地区の経済、教育、文化、保健、行政の中核管理機能を高め、高速交通網の整備は県内各地域をはじめ京浜、中京、阪神、日本海沿岸地帯との交通の結節点としての役割を担って交通、通信網が整備され、産業の発展とともに若い人々の定着を促し、社会生活のあらゆる分野にわたる都市機能が集積され、市民の安全が守られ、快適な生活環境が整備され、かつ自然と調和のとれた都市をめざす。

第三次須坂市総合計画

期間 平成3～12年度

基本理念 「豊かな市民生活の実現」本市は、まちづくりの基本目標を、そこに住み、

そこで活動する市民一人ひとりのしあわせに置き、明るく、住みよい活気に満ちた生活環境を築くことにより、真に人間的で、豊かな市民生活の実現をめざす。

将来像『21世紀を拓く－技術と景観のまち 須坂』

意味

21世紀への鼓動を聴きながら、この地に住みついた先人の心に想いを馳せる。私たちの祖先は、ある者は北から、ある者は南から、豊かな実りのこの地に住みついた。生活の安定と心の安らぎを求める人々の生への営みは、生活技術を生み、やがて産業技術を発展させ、明治・大正の製糸技術、戦後の工業技術と果樹栽培技術の一大先進地帯を形成してきた。

また、本市は、美しい自廃環境と景観に恵まれた地域を舞台として、生活・文化・産業を発展させ私たちは、このような本市の優れた自然的、歴史的資源を現代によみがえらせ、個性と魅力にあふれる”高度な技術と優れた景観のまち”をめざして、21世紀への須坂市を創造的に切り拓いて行きたいと思う。

よって、本市の都市像を、「21世紀を拓く－技術と景観のまち 須坂」

と定め、次の3つの基本目標を掲げ、市民の英知と力を結集し、その実現に向けて邁進しようとするものである。

第四次須坂市総合計画

期間 平成13～22年度

基本理念 市民のしあわせと まちの輝き

将来像 『やさしさと活力あふれる美しい 共生・文化のまち』

意味

わたしたちが目指す将来の須坂市は、『やさしさがあるふれるまち』です。すべての人にやさしく、健康でしあわせな暮らしを応援するまち、自然を守り、環境にやさしいまちを築いていきます。

そして、『活力があふれるまち』を目指します。確かな技術に支えられた産業の積み重ねのうえに、情報化による新たな発展の可能性を追求し、21世紀産業の構築を目指します。また、生涯を通じて学び、自己実現できる社会を目指し、市民の活力あふれる暮らしを応援します。

さらに、『美しいまち』を目指したいと考えます。自然景観の美しさや蔵づくりの町並みに代表される個性豊かな都市景観、快適で緑豊かな生活環境など、美しく、うるおいに満ちたまちを築いていきます。

こうした『やさしさと活力あふれる美しいまちづくり』を支えるために『共生』社会をつくることを目指します。人と自然の共生はもとより、性別や年齢、障害の有無などあらゆる違いを越えて、共にしあわせに暮らせる安心・安全なまちを目指します。また、共生のまちづくりに加え、これまでではぐくまれてきた香り高い須坂の文化を伝えるとともに、市民が真の豊かさを感じることができる新たな須坂文化を創造する、『文化のまち』を目指します。

以上のような考えから、新たな須坂市の将来像を「やさしさと活力あふれる美しい共生・文化のまち」とします。そして、市民一人ひとりがいきいきと、チャレンジ精神を発揮して新たなまちづくりに取り組めるよう、21世紀ではじめてのこの計画を、「いきいき・すざか新世紀創造計画」と呼び、市民と行政が一体となったまちづくりを展開することとします。

自治体名	長野市
作成年	平成19年
基本理念	<p>1 パートナーシップによるまちづくり-全ての分野において市民が意欲的にまちづくりに参画し、市民と行政が協働で創る“ながの”</p> <p>2 「長野らしさ」をいかしたまちづくり-「長野らしさ」をいかし、「地域」※1の魅力とそれを支える「人」の力でいきいきと発展する“ながの”</p> <p>—歴史・文化・自然など大切なものをいかし、住んで誇れる地域づくり</p> <p>—魅力をみがき、人をひきつける、訪れてみたくなる地域づくり</p> <p>3 健全で効率的な行政経営-民間活力の導入や絶え間ない改革を推進し、効果が最適で最大となる行政経営を行う“ながの”</p>
将来像	「～善光寺平に結ばれる～ 人と地域がきらめくまち“ながの”」
意味	<p>～善光寺平に結ばれる～</p> <p>①「善光寺平」は長野盆地のことを指しますが、善光寺平の中央に位置する長野市は、中山間地域や合併地域を含むそれぞれの地域が善光寺平を介して地理的に一つに結ばれており、古来から地域間の交流が盛んで文化的な結びつきも深いことから、長野市全域の地理的・歴史的・文化的な結びつきや一体性を表現しています。また、「善光寺平」をイメージしながら、様々な「長野らしさ」を思い描いていただくことを意図しています。</p> <p>②一方、地方拠点都市の長野市として、人・産業・文化など、多様な活動や活力が市域を越えて「善光寺平」の“ながの”に結ばれ、互いに交流し、活気ある“ながの”でありたいという願いを表現しています。</p> <p>③また、長野市は広域的な地域圏の中核を成しており、「善光寺平」の拠点都市として圏域との幅広いつながりを表現しています。</p> <p>人と地域がきらめく</p> <p>①「人」と「地域」は、人づくり・地域づくりの重要性を表すとともに、住民が主体となりいきいきとした地域を創っていく都市内分権の考え方や多軸的なまちづくりを表現しています。</p> <p>②「善光寺平」で表現される「長野らしさ」と、「人」「地域」の単語は、魅力ある元気な長野市を創っていくための要素として、第四次長野市総合計画を貫くキーワードになっています。</p>

自治体名	中野市
作成年	平成19年
基本理念	
将来像	「緑豊かなふるさと 文化が香る元気なまち」
意味	<p>○まちづくりにおいては、市民一人ひとりが主役であることを自覚するとともに、お互いが連携し、地域が一体となって豊かな生活を実感できるまちづくりを進めていくことが重要です。</p> <p>○「緑豊かなふるさと」という表現には、唱歌「故郷（ふるさと）」に代表される恵まれた自然環境と景観を大切に、自然との共生を根幹として充実した人生を送るという意味が込められています。</p> <p>○「文化が香る」という表現には、国文学者「高野辰之」、作曲家「中山晋平」、「久石譲」など多くの文化人を輩出し、音楽や美術など文化芸術を理解し高めていく市民性ととともに、土びなや各地に伝わる民俗芸能など伝統文化を受け継ぎ、郷土の誇りを大切にする心を育て、住民同士が交流していくという意味が込められています。</p> <p>○また、築き上げてきた多種多様な生涯学習機会を生かし、文化・歴史・芸術の香り高いまちづくりを進めていきます。</p> <p>○「元気なまち」という表現には、この地に住み、働き、勤勉と努力で新しい価値を創造し、自助自立の未来を築きながら、元気に歌声を合わせるように協力し合うという意味が込められています。</p> <p>○まちづくりの主役である市民が行政との役割分担の中で、住民自治を確立し、自主的な活動や交流・連携により、様々な取組みに挑戦し、地域の活性化と福祉の向上を実現していきます。</p> <p>○また、農業・工業・商業・観光サービス業など特色ある産業が連携して新しい取組みのもと、全産業の活性化を実現していきます。</p> <p>○こうしたことから、『緑豊かなふるさと 文化が香る元気なまち』を本市がめざす都市像とします。</p>

自治体名	千曲市
作成年	平成19年
基本理念	共生のまちづくり、交流のまちづくり、協働のまちづくり
将来像	「千曲の魅力と多彩な力が未来を拓(ひら)く躍動の都市(まち)」
意味	<p>— 都市像に込められた想い—</p> <p>・千曲の魅力</p> <p>ふるさとへの誇りを実感し、地域のブランド価値を磨きあげて、活力を創造する。</p> <p>千曲川を軸にまとまりの良い市域を舞台にして、豊かな自然と風土（千曲川・開けた大地・東西の山々など）、歴史や文化（棚田・森將軍塚など）、恵まれた人・物の交流が盛んな中継地（更埴IC・更埴JCT）である優位性、人を癒す温泉の力などを生かし、「地域の魅力を育て、活力を発展させるまちづくり」をすすめます。</p> <p>・多彩な力</p> <p>若者・高齢者などがチャレンジできる活躍の場をつくる。活発に連携し、創造的なまちづくりをすすめる。</p> <p>次代を担う若者や熟年者、高齢者、移住者、団塊の世代などが、多様な力を発揮し、「ライフステージごとの夢や喜び、そして安心して暮らすことができるまちづくり」をすすめます。市民や事業者・NPO・ボランティア・自治区などの力を合わせ、「多彩な力が発揮できるまちづくり」をすすめます。</p> <p>・未来を拓く躍動の都市</p> <p>千曲の魅力と多彩な力が結集したまちをめざして、「未来が拓ける躍動感あふれるまちづくり」をすすめます。</p>

自治体名	小諸市
作成年	平成21年
基本理念	小諸市の都市(まち)づくりの基本理念は、市民だれもが誇りをもって、いきいきと創造性のある豊かな暮らしを営むことのできる小諸らしさあふれる地域社会の実現を願って、次のように定めます。 1 小諸市民の誇りとなるふるさとづくり 2 豊かでゆとりのある暮らしづくり 3 市民意識が支える地域づくり
将来像	「～みんなで育む 笑顔と自然が響きあうまち 小諸～」
意味	協働のまちづくりを基本に、豊かな自然環境を守りながら、人々が幸せを感じられる、活力あるまちの実現をめざします。

自治体名	上田市
作成年	平成19年
基本理念	ア 自立と協働 ～まちづくりを行う際に、どういう考えかたに基づいて行動すべきか、ということを表しています～ イ 循環と交流 ～まちづくりを推し進め、発展させるためにはどういう手段をとればいいのか、ということを表しています～ ウ 創造と調和 ～まちづくりを行った結果のあるべき姿はどういうものなのか、ということを表しています～
将来像	「日本のまん中 人がまん中 生活快適都市 ～水跳ね 緑かがやき 空 ころろ 晴れわたるまち～」
意味	「日本のまん中なか」 長野県東部の中心都市として、国内外、地域の内外に発信し続けることを表現しています。 上田市郊外に鎮座する生いく島しま足たる島しま神社は、古くから「日本中央」と称されてきたほか、真田一族、自由大学、農民美術、蚕糸業、そして現在の先端技術産業や特産品、観光名所など、上田市が、さまざまな分野で国内外へ大きな影響を与えてきたことも表現しています。 「人がまん中なか」 「市民が主人公である」ということであり、この地域で言う「ずく」（ものごとくに立ち向かう気力や勇気などを表す方言）を出して、自らの地域を自らで良くしていこうという自立の精神を基調とした、上田市が根幹と考えるべき住民自治の在り方を表現しています。 「生活快適都市」 住む人、訪れる人が豊かで快適な時間を過ごすことができる空間を表しているものですが、それを支える経済的な豊かさや文化的な背景、そして安全・安心に過ごせるさまざまな生活基盤が整っていかなくては成り立たない概念でもあり、そういった幅広い意味を込めて表現したものです。 「水跳ね 緑かがやき 空 ころろ 晴れわたるまち」 緑豊かな森林など恵まれた自然環境を引き継ぎ、将来にわたって、すべての人が青空のような澄みきった心で時を過ごせるまちであることを願い、表現したものです。

自治体名	岡谷市
作成年	平成21年
基本理念	本市は、緑と湖につつまれた美しい自然のもとに、先人の培ってきた歴史、文化、伝統を受け継ぎながら、生活の質や都市の魅力を高める施策の展開を図ることによって、人と自然が共生する健康で文化的な活力あるまちづくりを進めてきました。 岡谷市民憲章は、このまちづくりに対する市民共通の基本的な姿勢を示したものであり、いつの時代にあっても変わらない普遍的な目標として市民に根づいています。 このため、第4次岡谷市総合計画においても、岡谷市民憲章をまちづくりの基本理念として、市民総参加によるまちづくりを力強く進めていきます。 ◆基本理念 ○ あたたかい心でまじわり、住みよい人間尊重のまちをつくります ○ 自然を保護し、公害のない美しい環境のまちをつくります ○ 心身をきたえ、明るい健康のまちをつくります ○ 教養を深め、かおり高い文化のまちをつくります ○ 仕事に誇りを持ち、豊かな産業のまちをつくります
将来像	みんなが元気に輝く たくましいまち岡谷
意味	本市は、高度な工業技術の集積が進んだ産業都市です。狭い可住地には約53,000人が密集して居住する、長野県第2位の人口密度であるコンパクトなまちでもあります。その背景には、緑の美しい山々や諏訪湖につつまれた自然環境と、中央自動車道と長野自動車道が交わる広域交通の要衝という立地条件があり、先人のたゆまぬ努力と創意工夫の積み重ねが現在の本市を形づくっています。 地方分権の進展に伴い、地方自治体には、自己決定、自己責任の原則のもと、健全財政を保持しながら特色あるまちづくりを推進することが求められています。 本市においては「市民総参加のまちづくり」を市政運営の基本として、市民と行政が手を携えて、ともに考え、ともに行動する、協働のまちづくりに取り組んできています。 今後も、市民一人ひとりが市政に参画し、いきいきと輝きながらその力を発揮できるよう、これまで以上に市民総参加による市民起点のまちづくりを推進していきます。 県内有数の工業都市として発展してきた経緯を踏まえ、働く場の確保、人口の定着を図りながら、一層の産業振興を推進し、自立したたくましいまちをめざしていきます。そのたくましさのもと、市民が輝き、いきいきと暮らすことができるまちづくりを進めていきます。

自治体名	飯山市
作成年	平成15年
基本理念	
将来像	「輝け いいやま! かえる宣言 おらもやる あんたもやろうや いいやまづくり」
意味	自分らしく、そして誇りをもってのびのびと人生を過ごせるまち それは、四季に愛され、ふるさとのあたたかさのある飯山にこそある。 わがまち飯山は、そんなふうに思えるまちにしていきたい。そして、そんなまちをつくっていくのは、わたしたち市民ひとりひとりなのです。 わたしたちは、もっともっと五感をつかって飯山のことを知り、理解します。ときには、これまで当たり前とっていた価値観、固定観念、慣習を見直し、新しい社会につくりかえることもおそれずにチャレンジします。 ふるさとの宝を大切につたえながら、いま、そして50年後、100年後にも輝きつづける飯山にかえる。 すこしでも便利になること、都会のように何でもそろっていること・・・ そのことだけにとらわれずに、ほんとうに飯山が好きで、こころ豊かに暮らし、将来の人生設計に自信をもてるように・・・ おらもやるから、あんたもやろう! ひとりひとりの小さな力を大きな輪にひろげ、みんなで自慢のわがまちをみがき、未来のこどもたちへ、自信をもってつたえていこう!

自治体名	松本市
作成年	平成13年
基本理念	雄大な北アルプス、大地をうるおす幾すじもの清流、豊かな緑、澄んだ空気、これらの松本を包み込むかけがえのない自然は、私たちの貴重な財産です。 先人たちは、この自然とともに生き、英知と努力で未来を切り開き、今日の松本を築いてきました。 今私たちは、この恵まれた自然と先人の築いた文化のもとで、市民一人ひとりが光り輝き、市民一人ひとりが尊重される、市民が主役のまちづくりを進めます。 それは、すべての市民が、お互いを思いやり、個性を認めあい、助けあい、健康で楽しく生きがいを持ち、安心して暮らせるまちを協働して創ることです。 そのようなまちづくりを通じ、私たちは、広く世界に目を向けて、新たな文化や新たな価値を生み出し、多彩な地域のすぐれた特性を活かしながら、魅力と活力そしてうるおいとやすらぎに満ちた、次世代に誇りを持って引き継ぐことのできる新しい松本を創造していきます。
将来像	「自然の躍動 文化の鼓動 人の輝き つながり ひろがり はばたく まつもと」
意味	松本市民がめざす将来のまちの姿は、次のとおりです。 1 みんなでつくる協働のまち 2 いつでも健康ではつらつと生きるまち 3 安全で安心してゆとりをもって暮らすまち 4 美しい環境を大切にして未来につなぐまち 5 熱気と活気にあふれ輝くまち 6 心豊かに夢がふくらみ育つまち

自治体名	塩尻市
作成年	平成17年
基本理念	本市では、市民憲章にうたわれている“だれにも親しまれ愛される豊かな田園都市”の実現とその継承を基本理念として、まちづくりをすすめてきました。 これまでの基本理念を継承しながらも、時代の変化に対応するため、次の三つの要素を再確認し、新しい時代の基本理念とします。 ・田園都市の継承と実践 ・自助努力による解決 ・新しいまちづくりへの挑戦
将来像	「ともに築く 自立と創造の田園都市」
意味	21世紀初頭の社会は、社会経済環境や市民意識の大きな転換期です。「もの」から「こころ」へ、「量」から「質」へ、「拡大」から「ゆとり」へと社会の志向が変わりつつあるなか、まちづくりにおける市民の役割も「参加者」から「担い手」へと変わろうとしています。 地域の特性をいかした「質の高い生活」を、市民、企業、行政が一体となって創造し、安心、安全、快適さを実感できる、だれもが住みよいまちを目指して、将来の都市像を「ともに築く 自立と創造の田園都市」とします。

自治体名	東御市
作成年	平成16年
基本理念	
将来像	「さわやかな風と出会いの元気発信都市」
意味	さわやかな高原的気候の中、自然の恵みを活かした農業や地域資源を活かした観光、まちに活気をもたらす商工業などバランスのとれた産業振興を図るとともに、生涯学習、保健・医療・福祉の充実を一層推し進め、人と人が出会い、新しい地域像や価値観を創造し、発信する都市をめざします。

自治体名	茅野市
作成年	平成20年
基本理念	茅野市は、市民・民間と行政が対等の立場で「パートナーシップのまちづくり」に取り組んできました。今後も、「パートナーシップのまちづくり」をさらに発展させ、「みんなでつくるみんなの茅野市」を合い言葉に、市民総参加のまちづくりを進めます。今後の茅野市の方向を示すまちづくりの構想は、茅野市民憲章の理念を基本理念とします。
将来像	人も自然も元気で豊か 躍動する高原都市
意味	私たちのふるさと、茅野市は、八ヶ岳連峰や蓼科山などの雄大な森林に抱かれて、縄文文化以来の長い歴史を築き上げてきました。八ヶ岳連峰の豊かな自然は、生きとし生けるものの生命を育み、私たちの日々の生活を支えてきました。 親から子へ、子から孫へと、人々の暮らしのなかで形づくられてきたふるさとを未来につなげるために、私たちは、今、何をなすべきか自らに問い、まちづくりを進めます。 茅野市には、未来への大きな希望があります。市民一人ひとりが、生きがいや人生の目標を持って、心身ともに健康で長生きであること。一人ひとりの個性や可能性が活かされ、市民同士が支えあう社会であること。そして、心の豊かさとともに経済的にも豊かであること。私たちは、「人が元気で豊か」なまちづくりを進めます。 また、私たちは、八ヶ岳の自然とともに暮らしてきたことを自覚し、豊かな自然を守り、育て、未来につなぐ「自然が元気で豊か」なまちづくりを進めます。 さらに、生活環境や都市基盤を整備し、まち並みや景観が美しいまち、安全で安心して暮らせる、市民が愛着と誇りを持った住みよいまちをめざし、未来に向かって「躍動する高原都市」づくりを進めます。 そこで、茅野市のめざすべき将来像を「人も自然も元気で豊か 躍動する高原都市」と定めます。 この将来像の実現のため、8つの政策を柱として、総合的・体系的にまちづくりを進めていきます。

自治体名	安曇野市
作成年	平成19年
基本理念	市民憲章は、まちづくりの方向を明らかにし、市民一人ひとりが主体的にかかわるための「道しるべ」となるものです。 そのため、市民憲章をまちづくりの基本理念と位置付けます。 安曇野市民憲章 安曇野市は、北アルプスの麓（ふもと）に広がり、美しい自然や豊かな歴史・文化に恵まれたまちです。 わたしたちは、ここに生きる幸せと誇りをもって、お互いに尊重し合い、より住みよいまちをつくるために、この憲章を定めます。 ・自然を愛し、水と緑豊かなまちをつくりま ・学ぶ心を育て、文化のかおるまちをつくりま ・思いやりを大切に、健康であたたかいまちをつくりま ・働くことを喜び、活力のあるまちをつくりま ・支えあいの輪を広げ、安全で安心なまちをつくりま
将来像	北アルプスに生まれ ころころ輝く 田園都市 安曇野
意味	平成17年10月1日に合併により誕生した安曇野市は、県人口が減少へと転ずる中、県内でも屈指の人口増加地域であり、将来の発展に可能性を秘めた地域です。 本市は、北アルプスの麓に広がる複合扇状地であって、多くの歴史的用水により、県内有数の米どころとして発展してきました。 また、田園風景に囲まれた豊かな自然環境と、良好な生活環境を併せ持つ地域でもあります。 このような中であって、良好な自然環境を維持しつつ、人と環境に配慮しながら、市民が活力と喜びを実感し、将来へ希望の持てる個性豊かなまちづくりを進めることが大切です。 このため、市民と行政が協働・連携を深めながら、恵まれた自然環境の保全と産業機能や生活機能がバランスよく配置された魅力的な都市環境の創造に努め、市民一人ひとりが輝きながら、成長・発展する地域を目指し、将来都市像を次のように定めます。

自治体名	佐久市
作成年	平成19年
基本理念	「ひとの絆・まちの絆で築く文化発祥の大地」 私たちは、鳴動する大山浅間山、せいひつなる名山蓼科山、ほとばしる大河千曲川の精気を受け、また、佐久平の高燥冷涼な気候、肥沃な大地により、多様な自然と豊かな実り、安らぎ、癒しを万年にわたり享受し、営々として歴史を築いてきました。この地に脈打つ、旧中込学校にみる進取の精神や気風、五稜郭にみる新時代をひらく叡智、農村医療にみる命を守る使命感やたゆまぬ努力、五郎兵衛新田にみる開拓の精神、現代書道の父天来にみる独創と先駆けの精神を誇りとし、この志を受け継ぎ、新たな文化の礎として発展させ、未来を担う子どもたちに伝えていかなければなりません。 本市では、これらの個性を尊重しながら共生・融合を図り、市民の一体感を醸成します。そして、安心して豊かに暮らせる新たなふるさと創造を進めるため、美しい自然環境に配慮した幹線道路・交通機関・情報のネットワークを構築します。さらに、この地域間ネットワークを佐久都市圏はもとより全国や世界ネットワークへと繋げることにより、たくましさや優しさを併せ持つ「多機能都市」として、真の地方の時代に立ち向かう魅力ある力強いまちづくりへと歩み始めます。 本市は、「ひとの絆・まちの絆」を基本として、21世紀を担う人材育成や100万経済圏づくりを行い、人や物流、さらに情報の要衝となるべき「21世紀の新たな文化発祥の大地」を目指します。
将来像	「叡智と情熱が結ぶ、21世紀の新たな文化発祥都市」とし、「一人ひとりのための温かみと豊かさのある生活空間」を副題とします。
意味	佐久の地に悠久の歴史を共有してきた私たちは、先人の培ってきた叡智とほとばしる情熱を受け継ぎながら、激変期の社会に凜として臨むことが大切です。 本市は、この大きなうねり乗り越え、真の地方の時代に立ち向かうたくましさや優しさを併せ持つために、様々な人々や地域、産業を通じた夢と希望に満ちた新時代を切りひらくまちづくりを目指します。

	都道府	自治体名	作成年	基本理念
1	長崎県	南島原市	H20年～一次	『南向きに生きよう！「みんなが主役“市民協働のまちづくり”』』
	将来像:「生活重視の安心・安全のまち」「自然・歴史・食の産地を地域ブランドにひととき輝くまち」「ずっと働ける元気な産業のまち」			
	意味:市の花「ひまわり」のように前向きな気持ちでみんなが協働し合って、問題解決に努めていこう。			
	特徴:豊かな自然環境を舞台とした太陽の恵みあふれる「食の産地」。世界遺産暫定一覧表の登録されたキリシタン史跡を持つ世界に誇る歴史の街。年間を通して太陽の光が燦々。地勢は、千メートルを超える雲仙山麓から南へ広がる肥沃で豊かな地下水を含む大地を有し、魚介類豊富な有明海及び橘湾に広く面する海岸線を持っています。気候は温暖で、適度な降雨量もあり、日照時間にも恵まれています。日本最初の国立公園である雲仙天草国立公園及び島原半島県立公園に指定されており、雄大な山々と美しい海を併せ持った地域です。			
	備考:海があるという点で須坂市と異なる。(そのため漁業がある)自然環境が豊かは共通している。意味は将来像ではなく、基本理念の意味であるので注意。			
2	秋田県	湯沢市	H19年～一次	幸せを実感できるまちをつくる、住むことを誇れるまちをつくる、夢を持ち続けられるまちをつくる
	将来像:人と自然が輝き、ふるさとの技がさえる 美しさあふれるまち			
	意味:豊かで美しい自然や景観、伝統ある歴史文化や美しい工芸品、美味なる食や酒などの特産品、温かい心と優しい笑顔			
	特徴:秋田県の南の玄関口。豊かな水田地帯を形成。県境付近の西栗駒一帯は、雄大な自然林を有し、豊富な温泉群にも恵まれています。気象は、内陸性で気温の差が大きく。			
	備考:内陸性は須坂と同じ気候。			
3	新潟県	佐渡市		
	将来像:「文化の薫るおけさの島」「人情と優しさのあふれる島」「トキの舞う美しい島」「働く汗の光る島」「笑顔と長寿の明るい島」			
	意味:			
	備考:佐渡ヶ島は知名度も高く、須坂とは似ていない。また、島であり須坂とは似つかない。			
4	宮城県	栗原市	H19年～一次	市民が創る ぐらしたい栗原
	将来像:恵まれた自然に包まれた、質の高い暮らしのまち、豊かな感性と生きる力を育むまち、健康や生活に不安がなく、優しさと思いやりで満ちたまち、地域の特性を活かした、産業や交流が盛んなまち、市民がまちづくりを楽しめるまち			
	意味:※別紙参照			
	特徴:宮城県内陸北部。面積の8割近くが森林や原野、田畑。			
	備考:面積の8割が自然というところは須坂と類似。			
5	宮城県	登米市	H18年～一次	市民との協働による登米市の持続的な発展
	将来像:「夢・大地 みんなが愛する水の里」生き生き健康都市 登米			
	意味:私たちが暮らすこの大地で、共通の財産である豊かな自然との共生を通して本市の一体性を築きながら、愛と夢と誇りをもって市民が一丸となったまちづくりを進めていくため。			
	特徴:気候は内陸性気候。県内有数の穀倉地帯(宮城米「ササニシキ、ひとめぼれ」の主産地として有名)。ラムサール条約指定登録湿地の伊豆沼・内沼、長沼、さらに南部には平筒沼があり、水の里としての様相を呈しています。			
	備考:			
6	福島県	喜多方市	H19年～一次	①豊かな心を育むまちづくり②魅力ある産業が有機的に結びつくまちづくり③みんなの知恵と協働で創るまちづくり④健康と思いやりで創る安全で安心なまちづくり⑤自然と共生する美しく快適なまちづくり
	将来像:豊かで元気な農山村と活力ある生活・観光都市 ～人と自然が共生し 水と緑に輝くまちづくり～			
	意味:美しく豊かな郷土を大切に、自然景観、農林産物、地場産品などの様々な資源を一体的に生かして各種産業の活性化を図り、就業の場の創出と若者の定住化を促進するとともに、人々が安心して生き生き暮らすことができ、にぎやかで子どもたちの笑顔があふれる新しいまちを目指す			
	特徴:蔵とラーメンのまち。主幹産業は農業。年間170万人の観光客が訪れている観光都市。酒造業や桐材加工、漆器など伝統的な産業が多い。内陸性気候。寒暖の差激しい。			
	備考:蔵は類似。酒造業も類似。全国的な知名度は喜多方市が断然上。			
7	福島県	二本松市	H20年～一次	「活力」「安全と安心」「共生と協働」
	将来像:自然の恵み 先人の知恵 いまに息づく文化の香り「いま拓く 豊かな未来 二本松」			
	意味:特になし			
	特徴:二本松ICあり。さくら名所あり。自然と歴史のまち。			
	備考:			

	都道府	自治体名	作成年	基本理念
8	秋田県	由利本荘市	H17～一次	①人と豊かな自然をつなぐ、健やかで創造性あふれるまち②交流とにぎわいに支えられて、生き生きと躍動するまち③住民自治と協働の精神に基づいた、可能性豊かで
	将来像: 人と自然が共生する 躍動と創造の都市			
	意味: 特になし(基本理念を受け、市の将来像を決めている)			
	特徴: 市の花「桜」。県都秋田市には20キロメートル～60キロメートルの圏内。秋田県内一の面積。海に面している。秋田由利牛が名産、その他りんごやそば、うどんが名産。自然豊か。 備考: りんごの生産地であること、県の中心市(須坂市は長野市に近い点)が隣、桜をメインとしている点など須坂に類似している点が多い。			
9	都道府	自治体名	作成年	基本理念
	京都府	京丹後市	H17～一次	①豊かな自然や歴史・文化の恵みを活かし、世界に誇れるまちづくり②ともに支えあい、安心して暮らせる健康・福祉のまちづくり③人が育ち、夢が膨らみ、未来に飛躍す
	将来像: ひと、みず、みどり 歴史と文化が織りなす交流のまち			
	意味: 第一段階「ひと、みず、みどりを結ぶ交流のまち」第二段階「若い力と希望が膨らむ交流のまち」第三段階「新しい歴史をひらく交流文化のまち」段階的に成長するまちづくりによって将来像を実現していく。 特徴: リアス式海岸部の良好な湾や入江を通して、古代から大陸・朝鮮半島と活発な交流。近世には回船業や丹後ちりめんの生産がまちの産業を支え、今日では、新たに機械金属工業・観光産業がまちの発展。 備考:			
10	都道府	自治体名	作成年	基本理念
	岡山県	真庭市	H18年～一次	「創造・改革・融和」
	将来像: “水と緑 人と文化を未来につなぐ 賑わいの「杜市」真庭” ～ 好きです真庭 ずーっと住みたい 私たちのまち ～			
	意味: 清流旭川や緑豊かな山々と共に生き、多彩な地域の資源を情報・道路網により連携することによって、様々な産業が元気になり、若者が生き生きと働く賑わいのあるまちになります。また、子供たちが野山や川で楽しく遊ぶすばらしい自然環境を引き継ぐために、循環型の生活環境づくりを進め、安らぎを実感できるまちになります。四季折々の自然や祭りに人々が集い楽しみ、多彩な伝統・文化が生まれ、人のふれあいや交流が盛んなまちになります。そして、多くの市民が親しみと愛着を込めて“好きです真庭、住みやすい、ずーっと住みたい真庭”と口ずさみ、全国の人々からも“住んでみたい真庭”と注目されるまちになります。 特徴: 標高1,000m級の山々が鳥取県との県境を形成。流域には、「美作三湯」の一つである湯原温泉郷、神庭の滝などの多くの観光資源。農業地帯が旭川支流一帯に形成。 備考:			
11	都道府	自治体名	作成年	基本理念
	新潟県	十日町市	H19年～二次	夢を耕しつづける 感動と創造のまちづくり - 自立した市民の知恵と協働 -
	将来像: “雪・自然・農が織りなす温もりと躍動のまち”			
	意味: 魅力は雪国文化、信濃川などの豊かな自然資源であり、魚沼産コシヒカリに代表される米や伝統ある着物産業を中心として発展してきました。また、縄文文化に代表される歴史資源、雪や地域の伝統を活かした祭り・イベント、温泉など多くの地域資源に恵まれています。本市の最たる個性である「雪」は、私たちの暮らしと不可分なものとなっています。私たちは雪と共に生き、雪を活かし現在の礎を築いてきました。今後もその上に立ち、新たな価値を創造していくことが、この地域に生きる私たちの使命であるといえます。 特徴: 米や伝統ある着物産業を中心として発展。 備考:			
12	都道府	自治体名	作成年	基本理念
	香川県	みとよし三豊市	H20年～一次	自主・自立
	将来像: “豊かさ”をみんなで育む市民力都市・三豊			
	意味: 市民との協働体制の確立と地域内分権を進めながら、本市ならではの新たな“豊かさ”を常に創造・発信するまちづくりに挑戦します。 特徴: 豊かな田園地帯。ため池が多数点在。国際貿易港である詫間港とマリンレジャーのさかんな仁尾港の2つの地方港湾(県管理)を有しています。 備考: 海に面している。			
13	都道府	自治体名	作成年	基本理念
	兵庫県	南あわじ市	H19年～一次	なし
	将来像: “食がはぐくむ ふれあい共生の都市(まち)” ～夢、知恵、元気あふれる 豊穰の郷づくり～			
	意味: 農業や漁業などの第一次産業を生業の場としてだけでなく、他の産業と連携した雇用と交流創出の場として位置づけています。そして、多世代が共生するコミュニティ育成を目指して、広く、食(職)づくり、人づくり、まちづくりの場づくりを進めています。 特徴: 京阪神への「食」の供給基地。三毛作。淡路産玉ねぎは北海道に次ぐ生産地。播磨灘や鳴門海峡などからは、新鮮な魚介類が多く水揚げ。 備考: 将来像の「豊穰」という言葉が分かりづらい。			
14	都道府	自治体名	作成年	基本理念
	福島県	伊達市	H18年～一次	人と人、地域と地域が結び合い、協働するまち
	将来像: 伊達 織りなす未来 ひとつの心			
	意味: 人とひとのつながりを育むあたたかいまちです。田園や里山に抱かれたのどかさ都市的な利便性を兼ね備えた環境の下で、喜びを持って働き、健康で心豊かに暮らせるまちです。そして、未来を担う子どもたちが健やかに成長するまちです。市民はもとより来訪者にも安らぎを与えることができるまちです。 特徴: 土地利用は森林が38.4パーセントを占め、次に農地の26.6パーセントとなっており、伊達市全体の65パーセントを森林と農地で占めています。 備考:			

15	都道府	自治体名	作成年	基本理念
	富山県	南砺市	H19～	なし
	将来像:なし			
	意味:なし 特徴: 備考:総合計画はあるが、理念や将来像がない			
16	都道府	自治体名	作成年	基本理念
	兵庫県	丹波市	H17～一次	①いつまでも健康で安心して暮らせるまち ②人と人、人と自然が共生し、未来につながるまち ③地域を支えるにぎわいと活力あるまち
	将来像:人と自然の交流文化都市			
	意味:なし 特徴:気候は瀬戸内海型、内陸型気候。年間の寒暖差、昼夜間の温度差が激しく。丹波地域の山々をつつむ朝霧、夕霧は「丹波霧」と呼ばれ、豊かな自然環境に一層の深みと神秘さを醸しだしています。 備考:			
17	都道府	自治体名	作成年	基本理念
	愛知県	新城市	H20～一次	～ 新たな公共が導く 市民自治社会の実現 ～
	将来像:「市民がつなぐ 山の湊 創造都市」			
	意味:※別紙参照 特徴:市域の84パーセントは、三河山間部を形成する豊かな緑に覆われ。桜・紅葉が美しく、「三河の嵐山」とも呼ばれる桜淵公園。湯谷温泉。里芋・お茶・梅・高原野菜など特産品。春の桜まつり。日本の滝百選の「阿寺の七滝」。 備考:			
18	都道府	自治体名	作成年	基本理念
	新潟県	五泉市	H19～一次	なし
	将来像:人と自然が織りなす 創造都市 五泉市			
	意味:五泉市の最大の財産は、勤勉で人情豊かな「人」と、水や花、山などの豊富な「自然」です。「人と人」、「人と自然」のふれあいを大切にし、本市のもつ地域資源を最大限に活用するとともに、市民のみなさんとの協働による個性豊かで創造性に満ちたまちづくりを進め、将来像の実現をめざします。 特徴:良質で豊富な水資源に恵まれ、古くから絹織物の産地として知られる。ニット産業は、全国的な産地。全国的にも有数なぼたん、チューリップ、栗や銀杏、里芋、養殖鯉など数多くの特産を生み出しています。全国さくら名所100選に選ばれた村松公園の桜。150万本が咲き乱れ、一面が花のじゅうたんとなるチューリップ。115品種、5,000株が咲き誇るぼたん百種展示園など、花のまちとして、多くの観光客が訪れます。 備考:			
19	都道府	自治体名	作成年	基本理念
	千葉県	旭市	H19～一次	自立・共生・協働”によるまちづくり
	将来像:ひとが輝き 海とみどりがつくる健康都市“旭” ～日本一住みよいまちを目指して～			
	意味: 市民一人ひとりが、生きがいや人生の目標を持ち、それぞれの個性と能力を生かしながら主体的にまちづくりに参画することで自己実現し、成長しています。また、市民がまちづくりの主役として、多様な価値観やニーズを共有するとともに、個々の能力と意欲を結集させることで、地域の発展に貢献しています。さらに、地域と地域が共生し、交流することで、まちはより発展していきます。こうした人と地域の輝きに加え、海と緑の自然環境とその恵みをまちづくりに生かし、都市住民等との多彩で活発な交流が展開され地域が活性化しています。旭市の大切な地域資源である海と緑は、市民一人ひとりによって大切に守られ、後世に引き継がれていきます。また、これら豊かな自然と高水準の医療・福祉環境のもとで、市民一人ひとりが健康づくりに積極的に取り組み、万一の際は安心して医療・福祉サービスを楽しむことができるとともに、お互いに支え合うことで、心身ともに健康な日々の暮らしを実現しています。 特徴:南部は美しい弓状の九十九里浜に面し、北部には干潟八万石といわれる房総半島屈指の穀倉地帯。産業では、施設園芸、畜産、稲作、露地野菜など盛んな農業。 備考:健康づくりに力を入れている点は須坂に類似			
21	都道府	自治体名	作成年	基本理念
	長野県	伊那市	H21～ 1次	伊那市の恵まれた自然、景観や祖先から引き継いだ歴史、文化を大切にしながら、豊かさを実感できるまちづくりを推進し、「市民が主役」の活力に満ちた伊那市の実現をめざします。
	将来像:「二つのアルプスに抱かれた自然共生都市」 サブタイトル「人と歴史と文化を育む活力と交流の美しいまち」			
	意味:伊那市は、南アルプス・中央アルプスの雄大な山々に抱かれ、天竜川や三峰川等の清流に代表される豊かで美しい自然に恵まれています。また、春の桜、夏の緑、秋の紅葉、冬の雪景色などの四季折々の景色の中で、季節感あふれる生活が営まれています。その素晴らしい自然と人が共生し、人の営みである農林業・商工業・観光業などの産業が自然と調和して発展するまちを目指す。 特徴:産業は電気、精密、機械、食品などの製造業が発展。肥沃な土地と豊かで良質な三峰川水系の水をいかした米作りのほか、野菜、果樹、花卉などの農業が盛ん。高遠城址公園の桜。スキー場や農業公園、温泉入浴施設。 備考:			

	都道府	自治体名	作成年	基本理念
22	山梨県	南アルプス市	H17～一次	価値観の変化に対応した地域形成。対話と協働による地域形成。戦略性を持った地域形成。
	将来像: 人と自然が響き合う新「文化」都市・南アルプス			
	意味: 本市の個性を育んでいくのは、地域を代表する景勝地や質の高い芸術文化だけでなく、何げない生活の一場面や街の醸し出す独特の雰囲気など、あらゆる領域にわたる文化的資源であるといえます。新たな地域文化が地域社会のあらゆる領域に浸透していくことによって、望ましい将来像の実現が図られます。			
	特徴: 冬は寒さが厳しく、夏は気温が高いという盆地特有の内陸性気候。御勅使川扇状地やそれに続く低地では果樹栽培が盛んに営まれ、春から秋にかけてたくさんのフルーツが実る果樹園は、この地域を代表する 備考: 扇状地で果樹栽培が盛んな点は須坂に似ている。27軒の竪穴式住居跡など、貴重な遺物が数多く発見。			
	都道府	自治体名	作成年	基本理念
23	長野県	茅野市	H20年～四次	「みんなでつくる みんなの茅野市」を合い言葉に、市民総参加のまちづくりを進める。茅野市民憲章の理念を基本理念とします。
	将来像: 人も自然も元気で豊か 躍動する高原都市			
	意味: 私たちは、「人が元気で豊か」なまちづくりを進めます。ハヶ岳の自然とともに暮らしてきたことを自覚し、豊かな自然を守り、育て、未来につなぐ「自然が元気で豊か」なまちづくりを進めます。さらに、生活環境や都市基盤を整備し、まち並みや景観が美しいまち、安全で安心して暮らせる、市民が愛着と誇りを持った住みよいまちをめざし、未来に向かって「躍動する高原都市」づくりを進めます。			
	特徴: 観光リゾート地の蓼科高原(白樺湖、車山高原) 備考: 平成20年度からスタートする新しい総合計画の策定に当たっては、その策定手法を転換し、第4次茅野市総合計画という位置づけとはせずに、「みんなでつくる、みんなの茅野市」を合い言葉に、まちづくりの質的向上を目指し、市民総参加で「茅野市民プラン」と名づけ策定をしました。			
24	長野県	須坂市		
特徴: 果物の生産が盛ん(りんご、ぶどう)＝自然環境が豊か(果物栽培に適した扇状地)。内陸性気候。森林の面積が多い。長野市に近い。ICがある。日本100選(桜、滝)がある。蔵が多い。道が迷路。 自慢: 保健補導員発祥の地。菅平グリーンゴルフ＝日本一標高の高いゴルフ場【標高1,650メートル】。須坂動物園が有名。温泉がある。高原がある(峰の原、五味池破風)				